

図書館だより 106号



令和8年1月19日

秋草学園短期大学図書館

蔵書点検について [2月13日(金)～3月6日(金)]

2月13日(金)～3月6日(金)の期間、図書館では蔵書点検を行います。蔵書点検中、**図書館は閉館**となります。返却したい資料がある場合は「返却BOX」をご利用ください。卒業予定生は、蔵書点検期間中に**最終返却日2月16日(月)**を迎えますが、やはり「返却BOX」を利用して、期限内に必ず返却してください。

在学生には春季長期貸出を行っています。必要な資料は前もって借りるよう、ご協力をお願いいたします。実習に行く予定の学生は**10冊**まで借りることができますので、職員までお声がけください。

※卒業生については、卒業後に所定の手続きを行えば貸出しが可能になります。

詳しくは図書館HPをご覧ください。

※3月は開館時間が通常と異なります。また急遽変更の場合など、図書館HPでお知らせしますので、ご確認のうえ来館してください。



図書館HP



春休みの長期貸出

開始日：1月9日(金)　返却日：**4月9日(木)**

※卒業予定生は、**2月16日(月)**返却厳守で、お願ひいたします。

貸出冊数：5冊

※実習に行く下記の学生 貸出冊数：10冊

[幼教Ⅰ部1年] [幼教Ⅱ部2年] [地保1・2年]

今月の特集・・・『今年は、丙午（ひのえうま）』

今年の十干・十二支は丙午です。60年に一度めぐってくるこの年には、火事が多いとか、この年生まれの女性は男を食い殺すなどという迷信が信じられてきました。どうやら、井原西鶴『好色五人女』にも登場する八百屋お七からきているそうです。統計上丙午の出生率が有意に低かったのはそのせいだといわれています。さすがに今年はそんなことももうないと思いたいです。ただ火の用心だけは、いつも心がけたいものです。



●『十二支のはじまり』 荒井 良治 絵／小学館【E-ア】

…どうして子・丑・寅…の順になったのかを、小さい子にも伝えられる絵本です。

●『十二支考 上・下』 南方 熊楠 著／岩波文庫【B388-ミ】

…十二支の動物について、民族学や伝説から深く考察されています。文体の独特なリズム、流れ出るような知識量、慣れるまではとっつきにくそうな本です。しかし、白馬節会の白馬を青馬となぜよむのか、シェイクスピアの時代に実在した演芸馬とは、時間も空間も超えて語られる内容は、興味がつきません。

●『好色五人女』マンガ日本の古典 井原 西鶴 原作 牧 美也子 著／中央公論新社【M-マ-24】

…実話を題材に江戸時代に書かれた浮世草子。丙午生まれの八百屋お七の物語を、まずは漫画で把握してみましょう。

●『図解雑学よくわかる歌舞伎』 石橋 健一郎 編著／ナツメ社【774-イ】

…歌舞伎にもお七を題材にした作品があります。いま注目を集めている歌舞伎を、もっと知ることからどうぞ。

今月の特集本は、カウンターにある「今月のおすすめ」コーナーに置いてあります。

～図書館職員が選ぶ～

今月のピカッと光る一冊



『飼い犬に腹を噛まれる』 杉子女王 著／PHP／914.6-ア

タイトルは比喩ではありません。本当に噛まれてしまったそうです。

最初にお伝えします、犬などの動物に噛められたら、小さな傷だからと油断せずに病院を受診しましょう。傷の深くに細菌が潜んでいることがあります。幸い、著者は傷にはならず癌になっただけだったため、なぜか温泉の効能と「湯治」という言葉と歴史の奥深さに感じ入ったことを語り、ますます温泉好きになったことを熱く告げます。その癌が温泉につかったことで、劇的に治ったことも原因でしょうか。

皇室の一員であり京都産業大学日本文化研究所教授でもある著者のエッセイは、日本文化への深い理解がベースになっています。和菓子であったり、お米であったり、祭りであったり、老舗のぼんとぼんぼんであったり、神話だったり、話題は多岐に渡っていて、ユーモアを交えた優しい目線の文章に、ほしよりこさんの挿絵もあいまって、ほっこりとした気持ちで読み進められます。そして気が付くと、この国に伝わる伝統の奥深さに、自然と気がつくのです。

このところの日本では、なにかとお米が話題に上がります。ただ主食だからというだけでなく、米を作ることの意味をどうとらえるのか。著者の言葉がすとんと腑に落ちるのは、田植えをしたこともない私なのに不思議です。皆さんもこれからのお休みにこの本を読み、お米をしっかり頂いて、温泉にゆったりつかった気になって、元気に新年度を迎えてください。

またお会いできるのを楽しみにしています。



推薦者 鈴木



貸出ランキング～11・12月～



貸出回数	書名	著者名	出版社
3回	いかのおすし（防犯標語紙芝居）	にへい たもつ 作	教育劇画
3回	くーすけのクリスマス（はじめての行事かみしばい）	やすい すえこ 作	教育劇画
3回	てぶくろ（童心社のベスト紙芝居）	箕田 美子 画	童心社
3回	なんだったつけ（絵で遊べるかみしばい）	もなみ なみこ 作・絵	童心社
3回	国宝	吉田 修一 著	朝日文庫
3回	眠れる森の美女	シャルル・ペロー 原作	新書館

※貸出回数が同数のものが複数冊あったため、その中から司書がピックアップしました。



●●編集後記●●

2026年が始まりました。今年の抱負は決めましたか？ 人によっては年間〇〇冊読破が目標、という話も聞こえています。何かしら、軸になる方針を立てておくと、その年のテーマみたいなものが定まるようです。

昨年は、令和の米不足、夏の異常高温、不安定な国際情勢、と不安なことが多かったぶん、平穏無事のありがたみを噛みしめるように暮らしています。あと少しで本校を卒業される方も、あと数年本校の一員として一緒に過ごされる方も、どうぞ皆さんにとって平穏無事な年でありますようにと願っています。

次号の「図書館だより」は2026年4月に発行予定です。バックナンバーはこちら→
担当 鈴木

